



Forest 通信

8・9



林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター No.296

巻頭 photo 高尾山の生き物たち



ハンミョウ(ハンミョウ科)

木下沢の水場で、ミヤマカラスアゲハの吸水光景を撮影時に、ハンミョウが登場！実にカラフルな体色に感動してチョウそっちのけで撮影しましたが、この時ほど生物の持つ美しさに感動したことはありません。

このような綺麗な昆虫を、人間のエゴで採集すべきではありません。自然界の宝石的生物は自然の中で生き抜き、その生命を全うすることがまさに自然なのです。

(写真・文 大作栄一郎氏)



センブリ(リンドウ科)

九州から北海道までの日当たりのよい山野の草地に自生する2年草です。茎は10～20cmで、発芽した芽がそのまま越冬し、翌年の9～11月頃に紫色の筋が縦に入った白い花を多数咲かせます。

ドクダミ等と同じく有名な薬草であり、和名の由来である「千回振り出してもまだ苦い」とおり、非常に苦みが強く、乾燥させ煎じたものを胃腸薬に用います。

冬場に枯れた茎が地面から突き出ているのを見かけますが、好奇心で口に含むと即座に後悔する苦さです。

いろはの森

9月に入ったもののまだまだ厳しい残暑の中、いよいよセンターの活動のメインともいえる森林教室の季節がやってきます。70名程度の小学校から、なかには150名近い学校が大平国有林を訪れ、普段来ることのない大自然の豊かな森林で自然観察や丸太切りなどの体験を行います。春に比べると秋は植物の数が少なく少々寂しい気もしますが、本来の目的は森林・林業を深く学びそして触れあうことにあります。

季節も涼しくなって、子どもたちはどの小学校もそうですが、自然の中いきいきと職員からの説明を受けて

最後はみな満足そうに帰って行きます。準備や当日の対応など職員も大変ですが、帰りのバスの中から手を振ってくれる子どもの姿にいつもやり甲斐を感じます。(や)



人気の丸太切り体験



高尾森林ふれあい推進センターは、皆さんが高尾山の自然に親しみ、森林や林業に理解を深めるための諸活動を行っています。

森林カレッジⅡ

「森に学ぶ～森づくり ことづくり ひとづくり～」

平成25年7月27日、大平国有林で森林カレッジⅡを24名のカレッジ生参加をもって開催しました。当日は、午前中に東京農業大学森林総合科学科の宮林茂幸教授を講師にお招きし「森に学ぶ～森づくり ことづくり ひとづくり～」と題した講義をうけ、午後は下刈の実習を行う日程で進行しました。下記に講義内容を抜粋します。

我々の現代生活には、将来の生活環境、財政破綻への不安が山積、そこへ東日本大震災が襲った。20世紀型の効率至上主義から環境保全優先主義への転換が求められている。1000年に1度と言われる大災害に原子力発電所の事故から我々は何を学ぶべきか。まずは復興と地域経済の安定が最優先だが、「これより下に家を建てるな」の先人の教え（石碑）が津波から集落を救った例もあるように、自然を畏れることを忘れてはならない。科学技術は、自然の力を支配することはできない、自然と共存する持続可能な発展こそが大切である。

日本の森林面積は2500万ヘクタール、国土の約7割を占める。戦後に造林したものが多く、伐採時期を迎えているが、木材価格の低迷から林業経営の採算がとれず管理ができていないので荒れている。間伐も早急に行わなければならないが、木材価格が安いので伐れない。苗木のうちから競争して成長させて間伐すれば、電柱みたいにまっすぐな材を収穫できるが、材価が安く間伐に経費をかけられないから、そのまま育っていくしかなくなる。また、管理不足の森林は脆弱で多様な機能を発揮できなくなると共に、木々は材質も悪く根が十分張らず、森林の土壌が不安定になってしまう。このことが最近の局地的な大雨とあいまって、深層崩壊の一因になっているのではないかな。



台風被害による土壌の流出



講義に聴き入るカレッジ生

今は、外材の方が高い。外材は見た目はいいが、日本の風土には合わない。すぐかびるしシロアリに食われるということで防腐処理が必要だった。スギやヒノキは薬剤処理などしなくても十分もつ。しかし、現在は住宅の耐用年数が建築基準法の改定で短くなって、国産材を使わなくても外材で十分ということになっている。昭和41年と平成18年を比較すると我が国の森林蓄積量は倍以上に増加しており、森林面積はここ30年ほど変わっていないので、日本の森林は肥満状態にあり、管理不足から荒廃が進んでいる。

日本の50年後を考えたとき、人口は9500万人、うち4割くらいは高齢者になると予想されている。100年先をみて、今からちゃんと森林整備していく必要がある。急峻な地形の多い日本で森林をきちんと管理していかないと、あちこちで崩壊がおき、美しい国土がぼろぼろになるとともに、洪水や山地崩壊が後を絶たなくなるだろう。

森林の果たす役割の中で大事なものとして、教育があげられる。子どもを山の中へ5泊6日のキャンプに連れて行く。最初は携帯で遊んでいるが、時計も含めてとりあげてしまう。今の子どもは体力、視力ともに低下している。しかし夜、山中にお互い声の聞こえない距離に子どもを置いてきても、翌朝には全員集まってきている。沢登りをさせると、全員ができるまで助け合うようになる。初日と目つきが全然違ってくる。腹が減ったら食べる、眠くなったら眠る、こういう環境を体験することで人間の五感が活性化し新たな感覚が生まれてくる。森林は、そういったことを学べる、本物を体験することができる場だといえる。

家族の中に役割があるように地域でも役割がある。例えば、祭りでは地域の中で年寄りから若手へ、子どもたちも上級生から下級生へ技術や伝統が継承されていく。それが農山村のなかでの「ことづくり ものづくり」につながっていた。しかし今は、都市に人が集中してそういった農山村の生活が成り立たなくなっている。先人たちはいまよりはるかに上手に地域の森林を活用し、そして守っていた。

森林は木材の供給だけではなく、保水、安全な水の供給、二酸化炭素の固定、ストレスの緩和等生活の様々な面に恩恵をもたらしている。日本人は森林など自然から日本人特有の感性を育てている。森林は本物をつくり人間を育て、もの、ひと、そして地域社会をつくる場、すなわちひとづくりの元を養う。大切に守り育て活用し次世代に渡していくことで、日本の生活文化、木の文化を再生させることにつながる、と結びました。

午後からは、下刈の体験作業を行いました。作業に先立ち、職員から作業姿勢や保護具の着用など安全指導を受けた上、鎌の研ぎ方を実習しました。

作業後は「慣れない鎌と暑さで作業は大変だった」「危険と隣り合わせであることを実感」「日常では経験できないことが体験できてよかった」等の感想がだされました。

暑さのなか熱中症もケガもなく、講義では日本の森林・林業をとりまく問題点等、体験作業では短時間であっても林業の危険性や大変さを学び、充実した一日を過ごせました。



斜面での下刈作業体験

初めての丸太切りにドキドキ



7月25日(木)、墨田区の幼稚園の園児たちが当センターの木工体験に訪れました。

当日は晴天で、暑い中高尾山の登山で汗をいっぱいかいた園児たち75名は、14時頃センターを訪れ、丸太切りと、「ブンブン独楽」作りを体験しました。

園児たちは、のこぎりを持つのもスギの丸太を切るのも初めてで、慎重に切る子や大胆に切る子などさまざま。「ブンブン独楽」では花や顔などを描き個性豊かな独楽を作り、快調に回す子やうまく回らない子もいましたが、それぞれに楽しんでいました。

お手伝いをしてくれたFS高尾の皆さんをはじめ、スタッフ一同も天真爛漫な園児の仕草に癒やされたイベントでした。

子ども樹木博士と木工体験



当センターは、一般公募によるイベントとして、子どもを中心に多くの人々が樹木の名前を識別できるようになり、これをきっかけに森林に親しんでもらうことを目的に8月23日(金)、小学校1年生から5年生の親子ら27名を対象に「子ども樹木博士と木工体験」を実施しました。

メインの「子ども樹木博士」は、一般社団法人全国森林レクリエーション協会が定める認定活動の進め方に沿って企画・開催し、同認定基準に基づき、参加者一人ひとりの樹木の識別テスト結果を正解数により判定し、認定書を授与するものです。

今回の正解数による認定基準は、30種類の樹木を選定し、全問正解30種類となると3段、20から29で2段、11から19が初段、10が1級、9が2級、8で3級となります。参加者のうち、目黒区から参加のお母さんと2年生の女子は、お母さんから「親子であってもライバルだよ。自分で覚えてね。」、調布市から参加の2年生の男子は、「僕は、暗記して覚えるよ。」と歩きながら樹木を繰り返し復唱するなど、思い思いに楽しく取り組んでいました。

判定の結果は、お母さんが森林インストラクターを受験するという親子とリピーターの親子が全問正解3段を獲得するなど、一人ひとりがほぼ2級以上の好成績の結果となりました。

高尾の森で草木染め体験



秋空の下、草木染め体験と自然観察を行います。今回は一般の草木染めに藍を重ねる二重染めを試みます。

- と き** 平成25年10月17日(木) 9:30~15:00
と ころ 高尾山国有林 日影沢キャンプ場
集 合 JR高尾駅北口 **8:45**
 (9:12発のバスで移動。バス代往復440円)
実 施 森林インストラクター東京会
内 容 ・植物観察・・・裏高尾の豊富な植物相を観察しながら、草木染めの基礎を学習します。
 ・草木染め・・・2種類の染液を作り二重染めにトライします。今回はバンダナの布地に絞り・板締めを行い工夫を凝らし多様な模様を加えます。
対 象 者 大人30名(応募者多数の場合は抽選)
参加費 1人2,700円(材料費込み)
持ち物 昼食、飲物、エプロン、軍手、ビニール手袋、筆記用具
備 考 雨天中止(中止の場合前日に連絡します)

申込方法

往復ハガキの往信面に、参加者全員の①郵便番号②住所③氏名(ふりがな)・年齢・性別④電話番号(中止などの緊急連絡用)⑤電子メールアドレス⑥このイベントを何でお知りになったか。返信面には、お申込者の宛名をご記入の上、高尾森林ふれあい推進センター「高尾の森で草木染め体験」係までお申し込み下さい。

★申込〆切 平成25年10月3日(木)必着



編集後記

ようやく、夜クーラーをつけずに安眠できるようになりました。高尾山から吹き抜ける風に、夏の終わりを感じてちょっと切なくなります。淡い色合いの草花が一斉に咲く初秋から紅葉が始まるまでの、瞬きほど短いひとときにしんみりひたっています。(ま)

森の料理教室とクラフト体験



爽りの秋がやってきた！高尾山の自然の中で、森の料理教室とクラフト体験に参加してみませんか。

- と き** 平成25年10月19日(土) 9:40~15:00
と ころ 高尾山国有林 日影沢キャンプ場
集 合 高尾山国有林 日影沢キャンプ場 **9:40**
 (JR 高尾駅北口から京王バス「小仏行き」乗車、「日影」バス停下車のち、徒歩約10分)
実 施 高尾森林ふれあい推進センター
内 容 ・しいたけ収穫体験、森林散策
 ・乾しいたけ料理教室(料理研究家・堀江ひろ子先生をお迎えします。大人対象)
 ・クラフト体験(キーホルダー作り・子ども対象)
対 象 者 小学生以上の親子30名
 (応募者多数の場合は抽選)
参加費 1人200円(傷害保険加入代金)
持ち物 昼食、飲物、雨具、筆記用具
服 装 山歩きのできる服装(帽子、長袖、長ズボン、トレッキングシューズ等)
備 考 小雨決行(荒天中止)

申込方法

往復ハガキの往信面に、参加者全員の①郵便番号②住所③氏名(ふりがな)・年齢(お子様の学年)・性別④電話番号(中止などの緊急連絡用)⑤電子メールアドレス⑥このイベントを何でお知りになったか。返信面には、お申込者の宛名をご記入の上、高尾森林ふれあい推進センター「森の料理教室とクラフト体験」係までお申し込み下さい。★申込〆切 平成25年10月9日(水)必着

Forest通信 No.296

発行:高尾森林ふれあい推進センター

Forest通信へのご意見・ご要望・イベントの

お申し込み・お問い合わせ先

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

